

令和5年8月

各都道府県教育委員会教育長 様
各区市町村教育委員会教育長 様
各小中学校長 各位
各教育関係者 各位

全国小学校理科学研究協議会
会長 杉山 勇
第56回全国小学校理科学研究協議会研究大会
神奈川大会実行委員長 角井 治朗

第56回 全国小学校理科学研究協議会研究大会 神奈川大会 (最終案内)

第25回 関東甲信越地区小学校理科教育研究大会【神奈川大会】

◇期 日 令和5年11月16日(木)・17日(金)

◇大会主題 「グローバル社会を生き抜く心豊かな人間を育てる理科教育」

◇神奈川大会研究主題

「自然に親しみ、共に豊かな学びを創り続ける子どもの育成」
～問題を見だし、つなげ、理科を学ぶ意義を考える、令和時代の問題解決～

研究主題について

生成AIが一気に一般化している令和5年は、不安定な変動性、不確実性、複雑性、曖昧性といった先が不明確で予測ができないVUCA時代であり、最適解を科学的に追究する資質・能力を必要としている。Society5.0に向けた人材育成に係る大臣懇談会で発信された、「科学的に思考・吟味し活用する力」に加え、対話する力や価値を見付け生み出す感性と力、好奇心・探求力は、理科の学習を通して育成できるものである。自然を対象とする理科の学習を通して、「他者と協働してよりよい未来を創りだしていくために学び続ける」子どもの姿を求めて、研究、実践をしている。

ここで「自然に親しむ」とは、子どもが関心や意欲をもって、自然に関わりながら問題解決していくことであり、特に「問題を見いだす」場面や「観察・実験」の場面では、子どもが体験活動を通して主体的に学んでいく姿を目指している。

また「共に豊かな学びを創り続ける」とは、「豊かな自然観」や「子どものよさや可能性」をもとに、子ども自らが自然の事物・現象の中から問題を見だし、主体的に解決していく過程そのものである。子どもたちが将来に渡って学び続ける姿へとつなげたいと考えている。

◇主 催 全国小学校理科学研究協議会、神奈川県小学校教育研究会理科部会
横浜市小学校教育研究会理科研究部会、川崎市立小学校理科学研究会
◇後 援 文部科学省、神奈川県教育委員会、横浜市教育委員会、川崎市教育委員会
(一部申請中) 全国連合小学校長会、神奈川県公立小学校長会、神奈川県小学校教育研究会
横浜市立小学校長会、川崎市立小学校長会、横浜市小学校教育研究会
川崎市小学校教育研究会、全国中学校理科教育研究会
日本初等理科教育研究会、(公財)ソニー教育財団・ソニー科学教育研究会

◇参加費・資料代 7,000 円 (大会要項・指導案のみ4,000円)

第1日目 令和5年11月16日（木）

◇日程及び会場

全小理理事会、総会・研究全体会・講演会・レセプション

<会場>

○全小理理事会 関東学院大学 横浜・関内キャンパス テンネー記念ホール

○総会・研究全体会・講演会

関東学院大学 横浜・関内キャンパス テンネー記念ホール

○レセプション 関東学院大学 横浜・関内キャンパス 17階 テラス

(JR・横浜市営地下鉄 関内駅下車 徒歩2分)

<時程>

9:30	10:00	12:00	12:30	13:00	14:00	15:10	15:15	16:45	17:00	19:00
受付	全小理理事会	一般受付 昼食	総会 表彰式	研究全体会 基調提案 指導講話	記念講演	レセプション				

<研究全体会>

○基調提案 「自然に親しみ、共に豊かな学びを創り続ける子どもの育成」

～問題を見だし、つなげ、理科を学ぶ意義を考える、令和時代の問題解決～

全国小学校理科研究協議会研究大会 神奈川大会研究部長 鈴木 康史

○指導講話：文科省初等中等教育局教育課程課教科調査官 有本 淳 先生

○記念講演

演題：「はやぶさ2の挑戦：未知へ立ち向かったチームワーク」

講師：国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構（JAXA）

宇宙科学研究所 教授 はやぶさ2拡張ミッションチームリーダー

津田 雄一 先生

（講師紹介）

1975年、広島県生まれ

2003年、東京大学大学院航空宇宙工学専攻博士課程修了

2003年、JAXA 宇宙科学研究所（ISAS/JAXA）助教

2015年、JAXA はやぶさ2プロジェクトマネージャ就任（史上最年少）

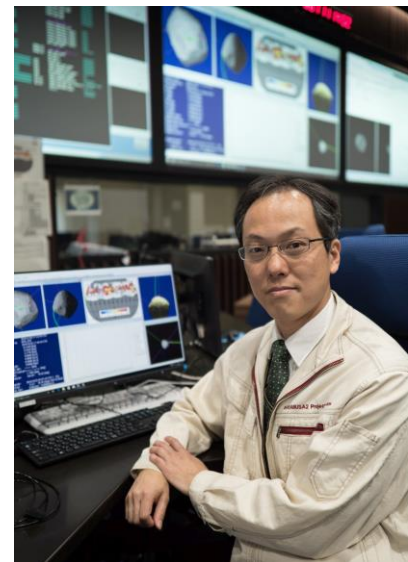
2020年、JAXA 宇宙科学研究所教授

2021年、はやぶさ2チーム IAF World Space Award 受賞

「M-V ロケット」の開発、小惑星探査機「はやぶさ」の運用に従事。また、ソーラーセイル宇宙船「イカロス」のサブチームリーダーとして、世界初のソーラーセイル技術の実現へと導いた。

小惑星探査機「はやぶさ2」の開発にあたってはプロジェクトエンジニアとして技術開発を指揮。2015年よりプロジェクトマネージャ（ミッションの総指揮者）に就任。「はやぶさ2」は、2020年、地球に回収カプセルを帰還させ、現在、次の目的地へと旅を続けている。

* IAF（国際宇宙航行連盟）…平和目的の宇宙航行の発展や研究を促進する活動をしている国際的な組織



第2日目 令和5年11月17日（金）

<会場> 横浜市立井土ヶ谷小学校 横浜市立立野小学校 川崎市立下沼部小学校

<時程>

8:30	9:00	9:20	10:05	10:10	10:55	11:15	12:25	13:15	14:15	14:20	15:20	15:35	16:35	16:45
受付	オリエンテーション	授業Ⅰ	授業Ⅱ	移動	授業分科会 会場校提案	昼食	分科会Ⅰ 地区提案	分科会Ⅱ 地区提案	移動	指導講話	閉会			

研究主題 「つながりを生かして学びを深める子どもの育成」
 ～「ひと・もの・経験」でつなげる、つながる生活科・理科～

学校 HP



「つながり」の概念図

井土ヶ谷小学校が考える「学びを深める」

見方・考え方を働かせた学習活動の中で

ひとと「つながる」ことで学びを広げたりより確かなものにしたります

経験(既有的知識)と学んだ知識が関連付き「つながる」

結果からはそこまでは、いえないと思うよ

たしかに... ここまでならどうか？

今まで使っていた仕組みは、こういうことだったのね！

前に解決して分かったことが根拠として使えるね！

他のものも同じだ！でも少し違いもある

研究主題 「ともにかかわり合いながら、自分づくりを進める子どもの育成」
 ～自然をじっくり観察し、浸る子どもを育成する生活科・理科～

学校 HP



本校では、自然をじっくり観察するための力を身に付け、自然や活動に浸ることができる子どもを育てるために「対話を通して考える」「主体的に学ぶ」「見方・考え方を働かせて学ぶ」授業を目指しています。そうすることで、つながりを求め続け、夢をもち続け、たのしみながら変容し続ける子どもになり、より良い社会を切り拓いていける子どもになると考えています。

自然を「じっくり観察」しながら問題解決することで、「自分にとっての価値」を見つけ、自然に「浸る」ことができるようになります。自然に「浸る」ことができれば、そこにまた「価値」を見つけることができるようになります。それが、「じっくり観察」することにつながります。その繰り返しにより「価値」が広がり、その「プロセス(学び方など)」にも価値を見いだすことができるようになります。

そして、「浸る」ことで他の自然事象にも興味をもち、そこで出会ったものを「じっくり観察」することで、また「浸る」ことができるようになります。それがどんどん広がっていくことで「価値あるもの(こと)」が増え、「生きがい」になっていきます。それは「自分づくり」につながっていくと考えています。

研究主題 「主体的に動き出し、共に学びをつくりあげる子の育成」
 ～科学の“め”を育てる生活科・理科～

学校 HP



下沼部小学校では児童の実態を踏まえ、「主体的に動き出し、共に学びをつくりあげる子の育成」という研究主題を設定した。「主体的に動き出す」とは「問題意識を持続させ、自らの学びを振り返り、解決に向けて主体的に学ぶ」ことである。「共に学びをつくりあげる」とは「他者との対話を通して考えを広げたり深めたりし、共に学びを深める」ことである。このように「主体的・対話的」の両側面から子どもたちの学びを保証することで、深い学びを実現し、資質・能力の獲得をすることを目指している。

また、この主題を実現するために～科学の“め”を育てる生活科・理科～という研究副題を設定している。「科学の“め”」は、3つの意味を包含している。

科学の“芽”は主に主題の「主体的に動き出す」の部分と関わりが強く、「事象や材と出会う中で問題意識が芽生え、その芽を大切に育てていく」という意味を込めている。

科学の“目”は主に主題の「共に学びをつくりあげる」の部分と関わりが強く、「考えをもって他者と関わり、自分の考えをより科学的なものに変容させていこうとする目を育てていく」という意味を込めている。

科学の“メ”は「メタ認知を働かせながら、自らの学びを価値つけていく」という意味を込めている。材や事象、友達との関わりから、自らの問題意識を明確にしたり、自らの学びを価値づけたりすることを実現していく。

子どもたちが3つの“め”を相互に連動させながら問題解決していくことが「主体的に動き出し、共に学びをつくりあげる」姿を実現していくと考えている。

研究主題 科学の“め”		授業改善の手立て	
I 主体的に動き出し	科学の“芽”	A	事象との出会い方を工夫する場面をつくる
		B	繰り返し事象に働きかける場面をつくる
II 共に学びをつくりあげる	科学の“目”	C	自分の考えを広げる目的をもった話し合いの場面をつくる
		D	自分の考えをまとめる目的をもった話し合いの場面をつくる
IとIIを支える	科学の“メ”	E	自らの学びを意図的に振り返る場面をつくる

■公開授業Ⅰ（9時20分～10時05分）

■公開授業Ⅱ（10時10分～10時55分）

学年組	会場	授業Ⅰ 単元名	授業者	学年組	会場	授業Ⅱ 単元名	授業者					
1	1	教室	秋の自然を生かして遊びを創り出す子どもの育成 ～あきといっしょに～	1	3	教室	つながりを生かして自然の材での遊びを深める子どもの育成 ～あきといっしょに～	内田 佳子	1	3	教室	構 かおり
1	2	教室	私は大切な家族の一人。よりよい生活を考える子どもの育成 ～みんなのこころにこたえを～	2	1	教室	人とのつながりを通して、課題解決しようとする子どもの育成 ～地域と生活～	小黒 貴洋	2	1	教室	橋本詩穂里
2	2	教室	対象に愛着をもち、課題解決に喜びを感じる子どもの育成 ～植物の栽培～	2	3	アクティブステーション	「?を!に、!をみんなに」の学びを大切にすることの育成 ～自然や物を使った遊び～	小中 創平	2	3	教室	竹井 大地
3	2	教室	自信をもって考えを表現し、友達と交流する子どもの育成 ～太陽と地面の様子～	3	1	教室	生活経験や他教科とのつながりの中で学びを深め問題解決する ～音の性質～	渡部 隆之	3	1	教室	坂田 佳奈
3	3	教室	ひと、ものと積極的に関わる中で学びを深めていく子どもの育成 ～磁石の性質～	4	2	教室	学びをつながりの中で関連させ、自分の考えにいかす子どもの育成 ～温度と体積の変化～	小清水 徹	4	2	教室	秋山 知絵
4	1	教室	事象を見つめ、「つながり」の中で学びを深める子どもの育成 ～温度と体積の変化～	4	3	教室	単元を超えて、根拠のある予想を発想する子どもの育成 ～温度と体積の変化～	木戸健太郎	4	3	教室	土田 連嘉
5	1	教室	試行錯誤しながら、物事を科学的に捉えようとする子どもの育成 ～振り子の運動～	5	2	図工室	身近な物を見つめ直そうとする子どもの育成 ～物の溶け方～	荒川 基	5	2	図工室	戸篠 直角
5	3	教室	既習の内容を基に、自分で解決方法を発想する子どもの育成 ～電流がつくる磁力～	6	1	教室	根拠を積み重ねて、より妥当な考えをつくりだす子どもの育成 ～電気の利用～	橋爪 夢乃	6	1	教室	猪口 達也
6	2	理科室	複数の情報をいかして、より妥当な考えをつくりだす子どもの育成 ～水溶液の性質～	6	3	教室	つなげて推論することで、より妥当な考えをつくりだす子どもの育成 ～土地のつくりと変化～	小川 葵巴	6	3	教室	高橋 惇平

■公開授業Ⅱ（10時10分～10時55分） 個別支援学級 【会場】教室
 【単元名】 体験を通して、課題を解決していこうとする子どもの育成 ～もっとふやそうできること～
 【授業者】 澁谷亜也子 米津 悦子 齋藤 朋子 神澤 俊 瀧谷 妙子

■授業分科会（11時15分～12時25分）※3～6年生 助言者は、学年別分科会と同じ

【1・2年生】 助言者 星槎大学・大学院 教授 北村 克久
 助言者 東海大学 准教授 寶來 生志子
 【個別支援学級】 助言者 横浜市立藤の木小学校 校長 今野 裕子

■学年別分科会（13時15分～15時20分）

分科会	発表内容	都道府県	発表者	助言者
3年	仲間との対話を通して自然事象への気付きや疑問をもつ子供～個々の認識の「ずれ」や「違和感」に焦点を当てた授業づくり～	山梨	山梨大学教育学部附属小学校 教諭 山崎 壮	甲府市立甲運小学校 校長 砂長 完郎
	体験と対話から問題を見いだす子どもの姿を目指して～誰一人取り残さず問題を見いだせるようにする授業づくり～	神奈川	横浜市立みなとみらい本町小学校 教諭 松尾 健一	関東学院大学教育学部 教授 黒田 篤志
4年	根拠のある予想を発想する力を育てる理科学習	愛知	名古屋市立飯田小学校 教諭 大森 善之	名古屋市立杉村小学校 校長 大庭 雅之
	主体的に問題を解決し、新たな知を獲得する理科学習	神奈川	横須賀市立大津小学校 総括教諭 岸 重光	横須賀市立大塚台小学校 校長 関口 満
5年	自然の事物や現象に目を向け、問題解決を通して新たな価値を創造する児童の育成	広島	三次市立和田小学校 教諭 難波 香	三次市立田幸小学校 校長 藤井 俊介
	観察・実験方法を豊かに発想し、主体的に問題を解決していく子どもを目標として～単元を超えて育まれる解決方法を発想する力と育むための手立て～	神奈川	横浜市立高田東小学校 教諭 五十棲 慧	横浜市立岡津小学校 校長 下畝 直人
6年	科学の暫定性を踏まえ、新たな可能性を模索する問題解決	北海道	北海道教育大学附属札幌小学校 教諭 坂下 哲哉	札幌市立本通小学校 校長 香西 尉男
	自然に親しみ、自らの学びを振り返り、学びをつなげる理科学習の創造	大阪	大阪市立西九条小学校 教諭 山口 智江美	大阪市立大池小学校 校長 高尾 祐彦

■全体会（15時35分） 指導講話
 横浜国立大学 名誉教授 森本 信也 先生

■公開授業Ⅰ（9時20分～10時05分）

■公開授業Ⅱ（10時10分～10時55分）

学年組	会場	授業Ⅰ 単元名	授業者	学年組	会場	授業Ⅱ 単元名	授業者		
1	2	教室	わくわく あきのあそびで たのしもう! ～あきといっしょに～	伊坂太志	個別支援学級	教室	うさぎもわたしも いきている! ～小さなともだち～	日下 彩 藤原 梨花 伊藤 周平	
1	3	教室	えがお いっぱい やさしい チャレンジ ～みんなの にこにこ 大きくせん～	渡邊絵里子	1	1	教室	ステップミングとHappyなかよし ～いきものとなかよし～	小倉 智弘
2	1	教室	こんなに見つけた 立野のお気に入り ～もっともっとまちたんけん～	湯澤真理子	2	2	教室	もっともっと立野のまちを大きくしよう ～もっともっとまちたんけん～	神谷 有理
3	1	教室	輪になると光るワニ ～電気の通り道～	大原由美子	2	3	生活科 ルーム	うごくおもちゃをつくってあそぼう! ～あそんでためてくふうして～	中里 優子
4	2	教室	水の行方を突き止めろ ～雨水の行方と地面の様子・天気の様子～	宮野 凌	3	2	教室	とき明かせ!じ石のふしぎ ～磁石の性質～	中村 円香
4	3	理科室	熱気と寒気で空気は膨らむ?凹む? ～物の温度と体積～	水野 花恋	3	3	教室	重い?軽い? 見て、持っ、量ってみよう ～ものと重さ～	酒井 貴紀
5	1	教室	見える広がる私たちの空 ～天気の変化～	堀 優太	4	1	家庭科	水をさがれ! ～水のすがた～	山田 拓道
6	1	教室	生きている、そして生きてく。 ～人の体のつくりと働き～	森田 千智	5	2	教室	すごいがいっぱい!電磁石! ～電流がつくる磁力～	佐々木陽子
6	3	教室	「親切」を数値で考える!? ～てこのはたらき～	長谷川椋太	5	3	教室	振れるテンポで指揮を振ろう ～振り子の運動～	仲真 汐香
					6	2	理科室	じっくり観察しないと、月に代わって・・・ ～月と太陽～	境 孝

■授業分科会（11時15分～12時25分）※3～6年生 助言者は、学年別分科会と同じ

【1・2年生】 助言者 横浜市立丸山台小学校 校長 倉本 恵
助言者 横浜創英大学 こども教育学部 幼児教育学科 学部長 大内 美智子
【個別支援学級】助言者 横浜市授業改善支援センター 支援員 保科 泉

■学年別分科会（13時15分～15時20分）

分科会	発表内容	都道府県	発表者	助言者
3年	令和の時代を拓く理科教師の具現化 ～「理科を教える自信を高める」教員研修プログラムを通して～	兵庫	神戸大学附属小学校 教諭 俣野 源晃	南あわじ市立湊小学校 校長 藤堂 淳志
	自然に親しみ、主体的に追究する子どもの育成 ～第3学年「太陽とかけを調べよう」～	神奈川	座間市立相模野小学校 教諭 田中 克憲	筑波大学附属小学校 理科教育研究部 教諭 辻 健
4年	仲間と協力し、自分の考えを確かめる理科観察実験 ～ICT 機器を活用した協働的な学びを目指して 「水のすがたと温度」から～	埼玉	さいたま市立南浦和小学校 教諭 杉浦 奈々	さいたま市教育委員会 学校教育指導1課 主任指導主事 能見 郁永
	学びをつなぎ根拠のある予想や仮説を発想し、主体的に問題解決をしていく子どもの姿を目指して	神奈川	横浜市立子安小学校 教諭 小塚 雅光	玉川大学 非常勤客員教授 八嶋 真理子
5年	自然に親しみ、共に豊かな学びを創り続ける子供の育成 ～子どもが見方・考え方を自在に動かしながら、問題解決する理科授業～	鹿児島	鹿児島大学附属小学校 教諭 齋藤 祐聖	鹿児島市立広木小学校 校長 池浦 也寸志
	自然と向き合い、多様な考えを受け入れ、主体的に問題解決する理科学習	東京	世田谷区立多聞小学校 主任教諭 岡 大雄	世田谷区立城山小学校 校長 佐藤 弘典
6年	理科の見方・考え方を働かせ、自然に関わり続ける子供の育成	徳島	阿南市立富岡小学校 教諭 新田 望	阿南市立長生小学校 校長 谷中 英昭
	生活の中でエネルギー資源の有効利用を思考する子どもの育成	神奈川	横浜市立東汲小学校 教諭 吉川 賢宏	横浜市教育委員会 主任指導主事 片桐 大樹

■全体会（15時35分）指導講話

学校法人希望が丘学園 学園統括顧問 日置 光久 先生
福島大学 教職大学院 准教授 鳴川 哲也 先生

■公開授業Ⅰ（9時20分～10時05分）

■公開授業Ⅱ（10時10分～10時55分）

学年組	会場	授業Ⅰ 単元名	授業者	学年組	会場	授業Ⅱ 単元名	授業者		
1	2	教室	どうする いちねん ～あきになったよ!どうする～	牧田祐美子	2	1	多目的 教室2	おもちゃでチャチャチャ ～おもちゃはかせになろう～	佐藤 貴博
1	3	教室	どうする いちねん ～あきになったよ!どうする～	北山 卓	2	4	多目的 教室3	おもちゃでチャチャチャ ～おもちゃはかせになろう～	永野りつ子
3	3	教室	物の重さをくらべよう	板垣あかり	3	1	教室	じしゃくにつけよう	岩澤 烈
3	5	教室	物の重さをくらべよう	田中 雄太	3	2	教室	じしゃくにつけよう	井上 智弘
4	1	教室	自然のなかの水のすがた	藤原 有似	3	4	教室	じしゃくにつけよう	四宮 誠
4	2	教室	雨水のゆくえと地面のようす	久保田将央	4	3	教室	自然のなかの水のすがた	藤井 美恵
5	1	教室	流れる水のはたらき ～下沼部は東京都だった!～	生川 朋美	4	4	教室	雨水のゆくえと地面のようす	倉田 亨
5	2	教室	物の溶け方 ～見えないものを見ようとして～	駒谷 真琴	5	3	理科室	物の溶け方 ～見えないものを見ようとして～	阿部 一輝
5	5	教室	物の溶け方 ～見えないものを見ようとして～	粕谷明日香	5	4	多目的 教室1	流れる水のはたらき ～下沼部は東京都だった!～	石崎 興一
6	3	教室	電気と私たちの暮らし	八重樫祐介	6	1	教室	水溶液の性質とはたらき	有泉 翔太
6	5	教室	電気と私たちの暮らし	柴田真由美	6	2	教室	水溶液の性質とはたらき	石田なつみ
					6	4	教室	水溶液の性質とはたらき	宮澤 辰徳

■授業分科会（11時15分～12時25分）※3～6年生 助言者は、学年別分科会と同じ

【1年生】助言者 川崎市総合教育センター カリキュラムセンター指導主事 山城 祥二

【2年生】助言者 川崎市立長沢小学校 校長 中西 憲子

※生活科は、授業分科会として次のパネルディスカッションを行います。

【パネルディスカッション】 テーマ「・・・そう!やっぱり!!子どもの学びはつながっている」

文部科学省 教育課程課教科調査官 齋藤 博伸 ・ 幼児教育課教科調査官 平手 咲子

近隣幼保園長 他

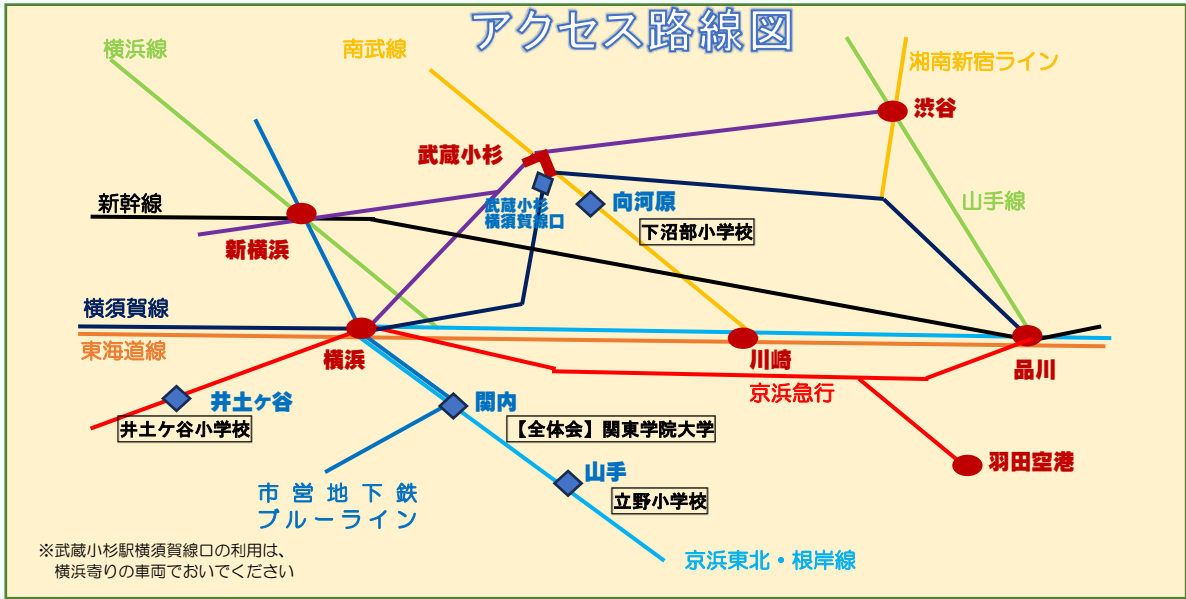
■学年別分科会（13時15分～15時20分）

分科会	発表内容	都道府県	発表者	助言者
3年	主体的・対話的に探究し、問題を科学的に解決する子供の育成	富山	射水市立片口小学校 教諭 福田 慎一郎	富山市立三成小学校 教頭 大窪 啓之
	自然と向き合い、多様な考えを受け入れ、主体的に問題を解決する理科学習	東京	文京区立金富小学校 主幹教諭 山崎 哲平	府中市立白糸台小学校 校長 堀越 新一
4年	深い学びにつながる単元デザインの工夫 ～単元の核となる問いにせまる単元課題の設定を通して～	沖縄	豊見城市立豊見城小学校 教諭 上窪 亮一	那覇市立教育研究所 所長 幸地 巧
	問題を解決する力を育む理科授業 ～自発的な学びのために～空気と水の性質	神奈川	川崎市立上丸子小学校 教諭 野呂 克哉	立命館大学産業社会学部 教授 野原 博人
5年	知的探究心をもち、問題を科学的に解決しようとする子供の育成	岩手	岩手大学教育学部附属 小学校 教諭 小野 綾香	盛岡市立河北小学校 校長 佐藤 均
	子どもの豊かな学びを育む理科教育の創造 ～5年 ふりこのきまりの学習を通して～	神奈川	相模原市立桜台小学校 教諭 藤原 雅彦	相模原市教育センター研究・ 研修班指導主事 坂下 大輔
6年	主体的に探究しようとする態度を育む理科学習 カリキュラム・マネジメントの工夫を通して	千葉	佐倉市立間野台小学校 教諭 田中 宏典	佐倉市立根郷小学校 校長 水嶋 智巳
	問題を解決する力を育む理科授業 ～自発的な学びのために～ 電気と私たちの暮らし	神奈川	川崎市立土橋小学校 教諭 亀田 瑞月 川崎市立川崎小学校 教諭 東 利樹	横浜国立大学教育学部 教授 加藤 圭司

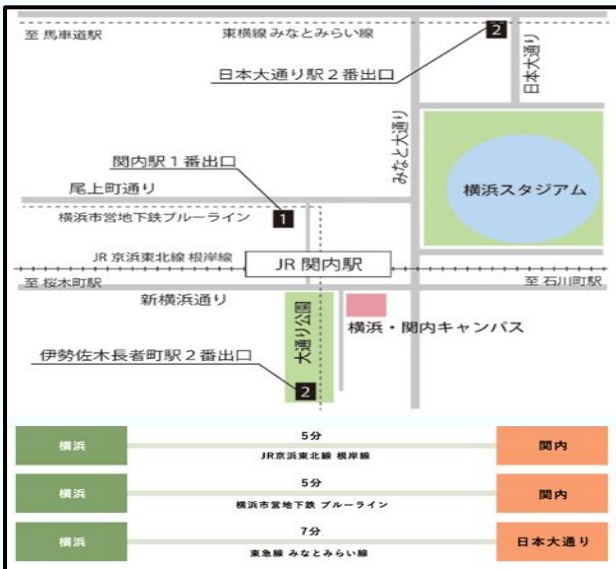
■全体会（15時35分）指導講話

國學院大學 人間開発学部 教授 寺本 貴啓 先生

各会場等のご案内

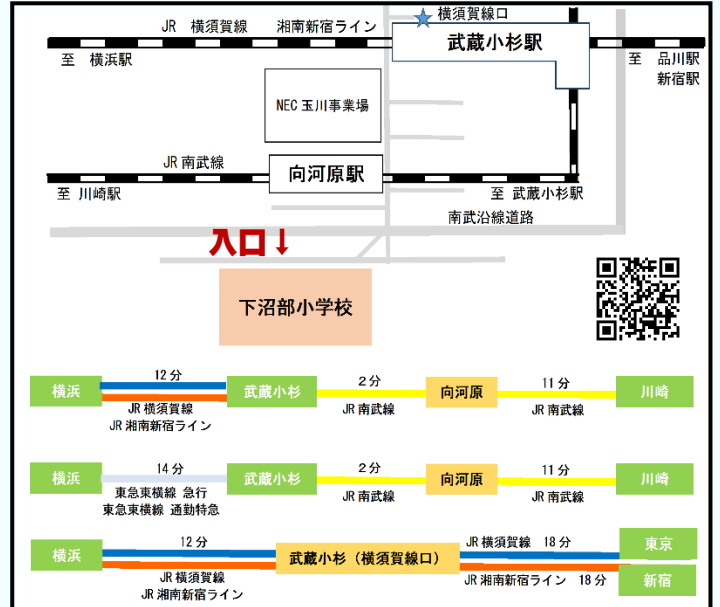


■ 1日目 全体会 関東学院大学 横浜・関内キャンパス2F テンネー記念ホール



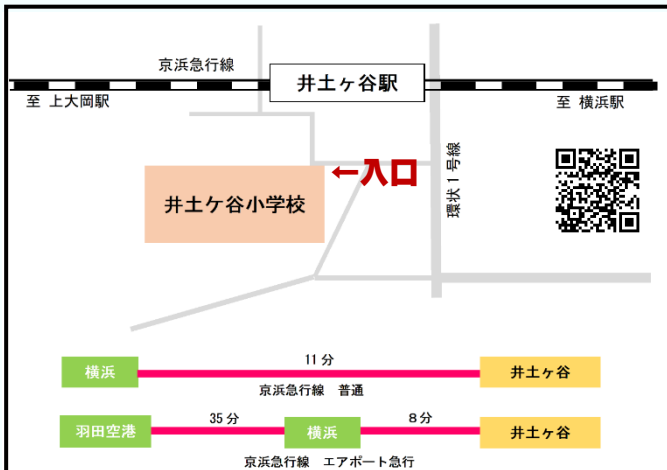
所在地 〒231-0031 横浜市中区万代町 1-1-1
JR・横浜市営地下鉄「関内駅」より徒歩2分

■ 2日目 川崎市立下沼部小学校



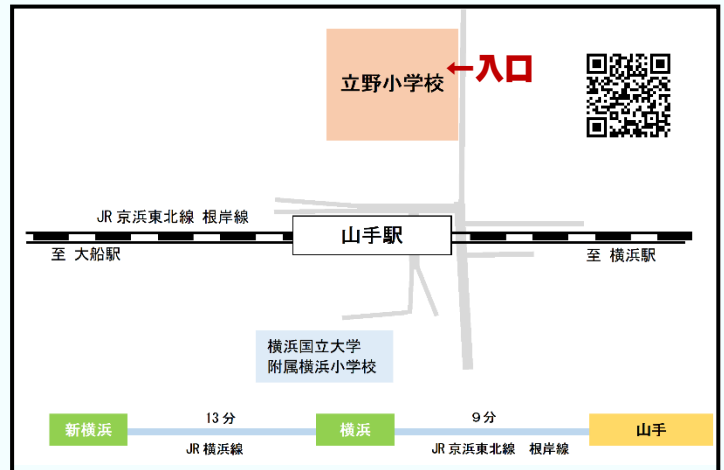
所在地 〒211-0011 川崎市中原区下沼部 1955
JR南武線「向河原駅」より徒歩3分
横須賀線「武蔵小杉駅 (横須賀線口)」より徒歩10分

■ 2日目 横浜市立井土ヶ谷小学校



所在地 〒232-0051 横浜市南区井土ヶ谷上町 2-1
京浜急行線「井土ヶ谷駅」より徒歩3分

■ 2日目 横浜市立立野小学校



所在地 〒231-0845 横浜市中区立野 76 番地
JR京浜東北線 根岸線「山手駅」より徒歩2分

研究構想

神奈川大会は、今回で5回目を迎えます。その都度、問題解決のあるべき姿を考え提案してきました。会場となる横浜・川崎の研究会、会場校に加え、神小理、CST など県下の理科のネットワークで神奈川の理科が大切にしていることが「問題解決」であることを確認し、会場校三校の目指す「問題を見いだす」「つながり」「理科を学ぶ意義を考える」を大切に、現学習指導要領や理科の見方・考え方が浸透し、GIGA 端末が普及し、多様性が求められる令和時代における、学びの意義や教師の役割を考える令和時代の問題解決を考え、実践し、授業公開や研究発表で問いかけていきます。



オール神奈川の理科
で大切にしたいこと



参加申し込み方法

① 大会申し込み方法

パソコンまたはスマートフォンから、神奈川県小学校理科研究会 HP（横浜市小学校理科研究会 HP 内）専用サイトからリンクできる専用サイトにアクセスしてお申し込みください。申し込み受け付けは、令和 5 年 **9 月 10 日～9 月 30 日** となります。



ホームページ URL <https://www.edu.city.yokohama.jp/sch/kenkyu/es-rika/kanagawa.html>

- ・1 日目は総会・研究全体会の参加申し込みとなります。
- ・2 日目は参観する会場校と午前に参加する授業分科会、午後に参加する学年別分科会を選択して申し込んでください。※必ず事前の申し込みをお願いします。当日の申し込みはできません。
- ・参加者と事務局とをつなぐデジタル連絡ツール「スクリレ」を導入します。申し込みの際に登録をお願いします。詳細は、神奈川県小学校理科研究会 HP をご確認ください。

② 大会参加費 7,000 円（大会要項・指導案のみ 4,000 円）

- ・1 日目 レセプション参加費は 5,000 円 です。
- ・昼食の申し込みはありません。各自でご用意ください。
- ・会場校へは公共交通機関をご利用ください。



③ 参加費用の支払い方法

所定の口座へ振込をお願いいたします。振り込み手数料は参加者負担となります。※取消料は 11 月 13 日から 100% となります。

④ 申し込み問い合わせ

株式会社 JTB 横浜支店（担当：教育営業第一課 秋山 晋）
TEL 045-312-3333 FAX 045-314-9198



大会実行委員長 横浜市立横浜深谷台小学校 校長 角井 治朗
横浜市戸塚区深谷町 1 3 1 2-1 Tel 045-852-0463 Fax 045-853-1026
大会事務局長 横浜市立菊名小学校 校長 松瀬 歩
横浜市港北区菊名 5 丁目 18 番地 1 号
Tel 045-401-9423 Fax 045-431-1563
ホームページ <https://www.edu.city.yokohama.jp/sch/kenkyu/es-rika/kanagawa.html>